

☒ 話すこと ☒ 書くこと☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実
☐ パフォーマンステストでの活用☒ 授業での活用
☐ 課外活動での活用☒ 家庭学習での活用実践の
ポイント

家庭学習でAIと段階的に練習した表現を授業でのペア活動へ発展させ、「書くこと」から「話すこと[やり取り]」への言語活動の充実を図った。

実証概要

<校数> 2校(小学校:1校、中学校:1校) <人数> 478名(小学校:95名、中学校:383名)

<学年> 小学校:第6学年、中学校:第1、2、3学年 <アプリ 等> ChatGPT API (OpenAI)、Looker Studio(Google)

<AI機能について> 自作「学習コンテンツ」と自作「記録コンテンツ」のそれぞれでChatGPT API を活用。Looker Studioは、自作「記録コンテンツ」で活用した。

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

●「学習コンテンツ<English AI Tutor>」の活用

「English AI Tutor」は単元の表現定着を目的とした3段階構成。

- ・Day1(書くこと):AIと対話しながら英語表現を習得・記録
- ・Day2(書くこと):習得した表現で英作文を作成しAIが添削
- ・Day3(話すこと[やり取り]):添削済み表現でAIと音声英会話練習

【小学校】ALTとの会話に向けAI英会話で事前練習。言いたいことを試す場として活用した。

●「記録コンテンツ<AI学びログ>」の活用

授業後の英語学習の振り返りにAIがフィードバック、語彙・表現の疑問をリアルタイムで解決し、自律的な学習を支援する。

- ①生徒がGoogleフォームで英語学習の内容・疑問・振り返りを記録
- ②AIがポジティブなフィードバックと英語学習の改善点を即時提供
- ③教師がLooker Studioで学習状況を可視化し、次時の中間指導・個別声がけに活用

実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

MEXCBTの問題を活用。中3では、4技能総合でB1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が0%→13%に向上。リーディング・ライティングの伸びが顕著で、AIの即時フィードバックが学力向上に寄与した。

②児童生徒の関心・意欲の変化

AIの肯定的なフィードバックで表現の幅が広がり意欲が向上した。
「英語が好き」小6 +5.9pt、中2 +3.3pt。「AIで話す力が付いた」小6 73.4%→92.3%に大幅に増加した。

③教師の指導の変化

【小学校】ALTとの仲介役をAIが担い、多くの児童がALTとの会話に自信を持って臨めるようになった。
【中学校】ログをもとに中間指導・授業計画を改善し、生徒の4技能総合B1以上が0%→13%に向上。習熟度別支援が充実した。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

●小中英語指導者連絡会議の開催

AI英語活用リーダーを中心に月1回の連絡会議(計4回)を開催し、英語授業の改善点やプロンプトの修正、小中接続を意識した指導計画について協議を重ねた。県教育研究協議会夏季研修・四国英語教育学会(2件)での実践発表、5月・9月の授業研究会の公開(県内外英語科教師・大学生参加)を通じてAI活用英語教育の普及を図った。

また、研究協議においても生成AIを活用して協議記録をまとめるなど、AI活用を授業外にも広げる取り組みを行った。

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

●自作コンテンツの汎用性を高めるためのシステム改善

AIを活用した授業実践を通じて、児童生徒の英語力向上と学習意欲の高まりという手応えを得ることができた。自作ゆえの柔軟な改善が強みである一方、汎用性の向上が今後の課題であり、教科担当とシステム開発者が連携した継続的な改善に取り組んでいく。